



小野田 由紀子 議員

### 代筆・代読支援の 推進について

**問** プライバシーを確保できる専門の支援員の要請に取り組むなど、代読・代筆支援を必要とする人のニーズに応じて、いつでも受けられる仕組みづくりの推進は。

**答** 現段階では、専門の支援員の養成やその仕組みづくりについて、今すぐ実施する予定はないが、例えば手話通訳者の養成研修を受講された方に、次のスキルとして身につけていただくといったこと等検討できます。まずは代読・代筆の支援サービスといった仕組みを広く事業者やボランティアの方々に知っていただくことから始めていきたい。

### 災害時の避難所運営について

**問** 災害発生時の避難所運営の流れについて。

**答** まず「初動期」は、応急的に「初動期避難所運営組織」を設置し、施設の安全点検や利用

スペースを確保し、避難所の開設、避難者の誘導・受入れ、医師会の協力で負傷者の対応にも当たる。次に「展開期」では、「避難所設置委員会」を設置し、避難者の生活や活動を円滑に行い、相談窓口を設置する。「安定期」では、避難生活が長期化し、心身の抵抗力が低下する時期でもあり、きめ細かな避難所運営に努め、学校など施設の再開に向けた協議等を行う。最後に「撤収期」は、ライフライン等の機能が回復し、仮設住宅の提供や学校施設等の再開など、避難所の縮小や統合に向けた準備・調整を行う。

**問** 避難所運営に関する訓練状況と今後の取り組みは。また、避難所運営支援班はどのように組織されるのか。

**答** 平成27年度から「防災リーダー養成講座」を開催、29年度は新たにフォローアップ編を開催し、防災リーダーの再レベルアップを図る。支援班については、内閣府のガイドラインや近隣自治体の状況等を参考に、検討を重ねていく。

**問** 災害発生時の職員体制は。

**答** 昨年4月から防災専門官を採用。より実効性のある危機管理マニュアルの運用に努め、避難所運営マニュアルの見直しも進めていきたい。



黒川 美克 議員

### 公共施設の あり方計画について

**問** 公共施設総合管理計画公共施設推進プラン案の現状及び今後の対応を問う。

**答** 市民講演会や住民説明会、町内会等の出前説明で、情報の共有化に努めた。今後もトーク&トーク等を通

じ、情報共有と情報発信に努める。特に高浜小学校等整備事業は、学校を核とした複合化施設のモデルケースで、本定例会で事業契約締結の議決をお願いしているが、老朽化が顕著で、児童の学習環境向上のためにも早期整備を進めていく。また、勤労青少年ホームの跡地活用も、現在、基本方針をとりまとめているが、南テニスコートを含めたスポーツの拠点整備について、平成29年度は実施方針を策定し、事業者募集に向けた手続きを進める予定。

**問** 公共施設総合管理計画インフラ施設推進プラン案の今後の対応について問う。

**答** 2月9日の公共施設あり方検討特別委員会

での説明のとおり、大きく見直したところはない。今後も市の財政状況とインフラ施設の現状を踏まえ、コスト縮減を図りつつ、優先順位付けをして推進していく。

**問** 公共施設あり方計画と市街地整備の連携について問う。

**答** 本市では既存の低未利用地活用、防災上危険な密集市街地解消、臨海部土地の有効活用等課題解決、瓦工場跡地の住宅地転換等で、住工混在型から住宅地へと、まちが様変わりしてきている。今後の都市計画マスタープラン見直しの中で、将来人口予測を基に人口フレームや土地利用状況を踏まえて、必要性を考えていく。

### 図書館行政について

**問** 高浜市立図書館の今後のあり方を問う。

**答** 高浜市公共施設総合管理計画公共施設推進プランで、平成30年度までに図書館のあり方を検討し、平成31年度にいきいき広場への機能移転を目指すとしている。子供に特化した図書館の強みを活かしつつ、図書館の使命や真に必要な機能とは何か、市民とともにキャッチボールしながら検討を進めていく。